

木徳神糧株式会社

**2004年9月期
中間決算説明会**

2004年6月3日

決算説明

- ◆ 中間期の業績(連結)
- ◆ 中間期の業績(単独)
- ◆ セグメント別の状況
- ◆ 貸借対照表の状況(連結)
- ◆ キャッシュ・フローの状況
- ◆ 財務戦略上の課題
- ◆ 通期の見通し(連結)
- ◆ 通期の見通し(単独)
- ◆ セグメント別の見通し

2004年9月中間期の業績(連結)

(単位:百万円)

主な項目	03年中間期	04年中間期	増減額	主な増減要因
売上高	51,394	55,057	3,663	コメ不作による価格高騰
売上総利益	3,593	3,317	△ 276	棚卸資産低価法採用 (評価損 432百万円)
販管費	3,752	3,596	△ 156	人件費抑制
営業利益	△ 159	△ 279	△ 120	
経常利益	△ 285	△ 503	△ 218	在庫積増しにより金利負担増
中間純利益	△ 556	△ 314	242	

2004年9月中間期の業績(単独)

(単位:百万円)

主な項目	03年中間期	04年中間期	増減額	主な増減要因
売上高	40,356	42,484	2,128	①コメ不作による価格高騰 ②食品事業分社化
売上総利益	1,976	1,401	△ 575	棚卸資産低価法採用 (評価損 421百万円)
販管費	2,207	1,956	△ 251	人件費抑制
営業利益	△ 230	△ 555	△ 325	
経常利益	△ 257	△ 693	△ 436	在庫積増しにより金利負担増
中間純利益	△ 488	△ 401	87	

セグメント別の状況

(単位:百万円)

主な項目		03年中間期	04年中間期	増減額	主な増減要因
米穀事業	売上高	43,957	47,906	3,949	コメ不作による価格高騰
	営業利益	378	159	△ 218	棚卸資産低価法採用 (評価損432百万円)
鶏卵事業	売上高	2,344	2,033	△ 310	相場低迷で推移
	営業利益	36	67	31	
食品事業	売上高	4,027	4,097	70	
	営業利益	20	137	118	もち粉、上新粉堅調に推移
飼料(園芸)事業	売上高	1,064	1,019	△ 44	
	営業利益	46	79	33	
合計	売上高	51,394	55,057	3,663	
	営業利益	481	444	△ 37	

貸借対照表の状況(連結)

(単位:百万円)

主な項目	03年中間期	04年中間期	増減	備考
現金および預金	2,474	2,806	332	
売掛債権	8,999	9,350	351	
棚卸資産	4,894	11,158	6,264	供給不安からの在庫積増し
その他流動資産	2,458	1,366	△ 1,092	
有形固定資産	10,642	10,305	△ 337	
無形固定資産	159	604	445	システム投資
投資等	2,697	2,812	115	
買掛債務	3,106	2,630	△ 476	政府備蓄米購入は現金決済
有利子負債	21,696	28,684	6,988	在庫積増しにより借入増加
その他流動負債	1,556	1,709	153	

キャッシュ・フローの状況

(単位:百万円)

主な項目	03年中間期	04年中間期	増減額	主な増減項目
税引前当期純利益	△ 809	△ 509	300	
減価償却費	445	493	48	
売上債権増減	85	△ 445	△ 530	
棚卸資産増減	△ 967	△ 7,208	△ 6,241	供給不安からの在庫積増し
仕入債務増減	△ 84	△ 832	△ 748	
その他	△ 152	1,414	1,566	
営業活動によるCF	△ 1,482	△ 7,087	△ 5,605	
有形固定資産の取得・売却	△ 734	△ 160	574	(前期)九州に無洗米工場建設
その他	△ 245	△ 88	157	投資有価証券売却
投資活動によるCF	△ 979	△ 248	731	
フリーキャッシュ・フロー	△ 2,462	△ 7,336	△ 4,874	
借入金による収入・支出	671	7,864	7,193	
その他	△ 43	△ 25	18	
財務活動によるCF	628	7,839	7,211	
ネットキャッシュ・フロー	△ 1,835	500	2,335	

財務戦略上の課題

◆ 経常利益の黒字化

- 2期連続赤字からの回復
- コミットメントライン(緊急時資金枠)導入条件のクリア

◆ 有利子負債の圧縮(連結)

項目	03年9月末	03年12月末	04年3月末
有利子負債額	208億円	342億円	286億円

※社債21.5億円発行含む

通期の見通し(連結)

(単位:百万円)

主な項目	03年9月期実績	04年9月期見通し	増減額
売上高	105,764	108,000	2,236
売上総利益	7,404	7,300	△ 104
販管費	7,438	7,150	△ 288
営業利益	△ 33	150	183
経常利益	△ 289	△ 215	74
当期純利益	△ 645	350	995

◆ 前提条件

■ 売上高

3月入札価格(下げ基調)を基準とする
従って、下半期は前期比 97%(1,427減)

■ 売上総利益

通期減少 104 (下半期 172増)

■ 販管費抑制

人件費減少 297 (下半期 200減)

■ 営業外損益

金利負担増加 100 (下半期 37増)

■ 特別損益

固定資産売却益 600 (下半期 510)

通期の見通し(単独)

(単位:百万円)

主な項目	03年9月期実績	04年9月期見通し	増減額
売上高	85,557	84,400	△ 1,157
売上総利益	4,319	3,560	△ 759
販管費	4,393	3,805	△ 588
営業利益	△ 74	△ 245	△ 171
経常利益	△ 238	△ 510	△ 272
当期純利益	△ 498	200	698

◆ 前提条件

■ 売上高

3月入札価格(下げ基調)を基準とする

従って、下半期は前期比 93% (3,285減)

食品事業の分社による減少 5,408 (下半期 2,468減)

■ 売上総利益

通期減少 759 (下半期 183減)

食品事業の分社による減少 554 (下半期 263減)

■ 販管費抑制

人件費減少 310 (下半期 200減)

食品事業の分社による減少 118 (下半期 60減)

■ 営業外損益

金利負担増加 96 (下半期 33増)

■ 特別損益

固定資産売却益 600 (下半期 510)

セグメント別の見通し

(単位:百万円)

主な項目		03年9月期 (百万円)	04年9月期 (百万円)	増減額 (百万円)	主な増減要因
米穀事業	売上高	91,557	93,651	2,094	上半期価格高騰、下半期価格軟調
	営業利益	1,058	1,211	153	上半期評価損発生、下半期価格安定
鶏卵事業	売上高	4,284	4,063	△ 221	上半期相場低迷、販売数量堅調
	営業利益	68	139	71	販管費削減
食品事業	売上高	7,936	8,291	355	
	営業利益	△ 12	90	102	もち粉、上新粉の需要堅調
飼料(園芸)事業	売上高	1,986	1,995	9	糟糠類売上高堅調
	営業利益	124	147	23	
合計	売上高	105,764	108,000	2,236	
	営業利益	1,238	1,587	349	

環境認識と今後の展望

- ◆コーポレートガバナンスに関する施策の状況
- ◆04年中間期の取組みと課題
- ◆米穀の指標価格と生産量の推移
- ◆中間期米穀の指標価格の比較
- ◆米穀事業を取巻く環境
- ◆米穀事業収益力の強化
- ◆米穀事業仕入・製造体制の改善
- ◆米穀事業営業戦略の見直し
- ◆米穀事業の目指す姿
- ◆食品事業・鶏卵事業の目指す姿
- ◆飼料事業の目指す姿
- ◆木徳神糧グループ成長ストーリー

コーポレートガバナンスに関する施策の状況

◆コンプライアンス活動

- 平成15年1月 コンプライアンス委員会の発足
グループの全役職員向けに実践研修の実施
グループ向けの「コンプライアンス活動ハンドブック」の作成
- 平成16年1月から ケーススタディ方式の研修の実施

◆品質表示管理委員会の役割

- 平成15年1月 品質表示管理委員会の設置、方針の策定
- 内部監査室・品質管理室による原料・製品の品質チェック(DNA鑑定含)
- 品質表示管理委員会による改善指示、改善結果の確認

◆お客様相談室の効果

- 平成15年12月 お客様相談室を社長直轄とし、専任管理職を置く
- クレーム対応の一元化、問題の早期発見、製品改善に寄与

04年中間期の取組みと課題

◆ 中間期における取組み

■ グループ精米工場のISO取得推進

本牧精米工場の「ISO9001」「ISO14001」同時取得
備前食糧の「ISO9001」「ISO14001」取得推進中

※桶川精米工場、木徳九州において取得済み

■ コンタミネーション(異種混入)解消対策の実施

設備投資の実施、製造手順の改善による発生量大幅減

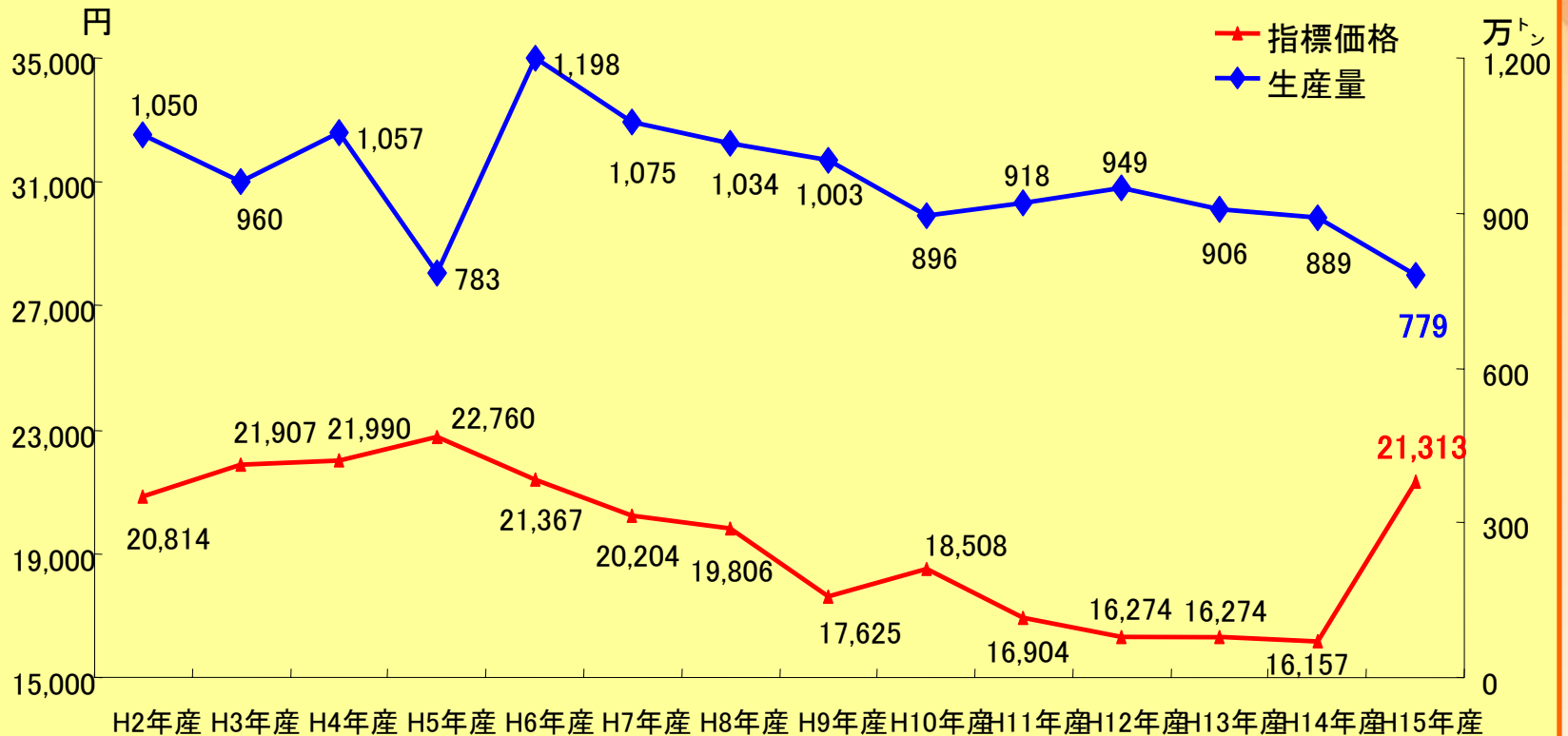
◆ 中間期における課題

■ 15年産米不作による影響

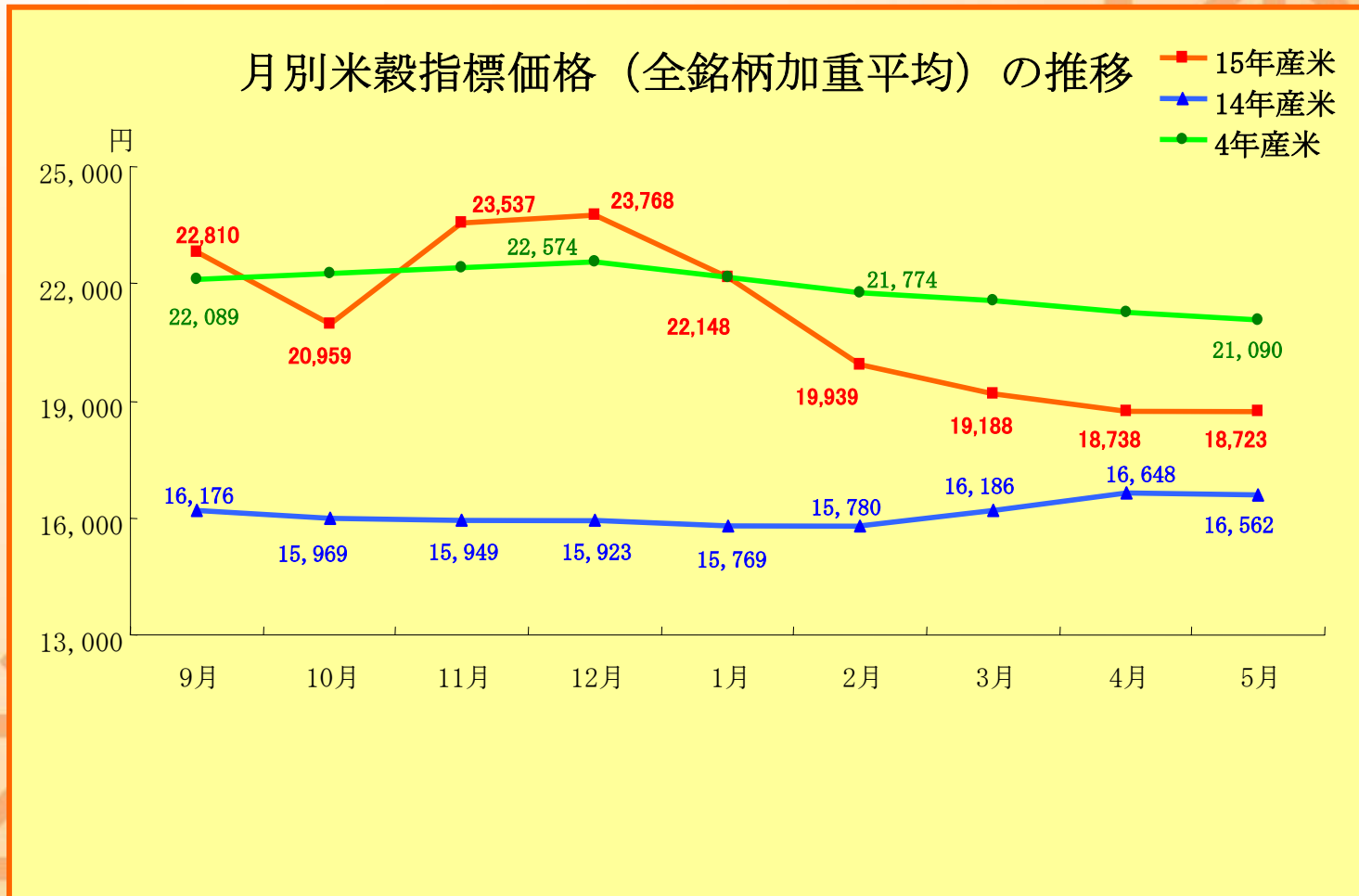
- ・産地(地区)・銘柄指定原料の確保を優先
- ・価格高騰による販売予測の見誤り
- ・価格高騰による無洗米販売拡大の停滞

米穀の指標価格と生産量の推移

米穀の指標価格(全銘柄加重平均)と生産量(平成2年産～平成15年産)



中間期米穀の指標価格の比較



16年2月末の民間流通在庫 76万トン(前年同期比 +43万トン)※農水省資料

米穀事業を取巻く環境

◆全体環境

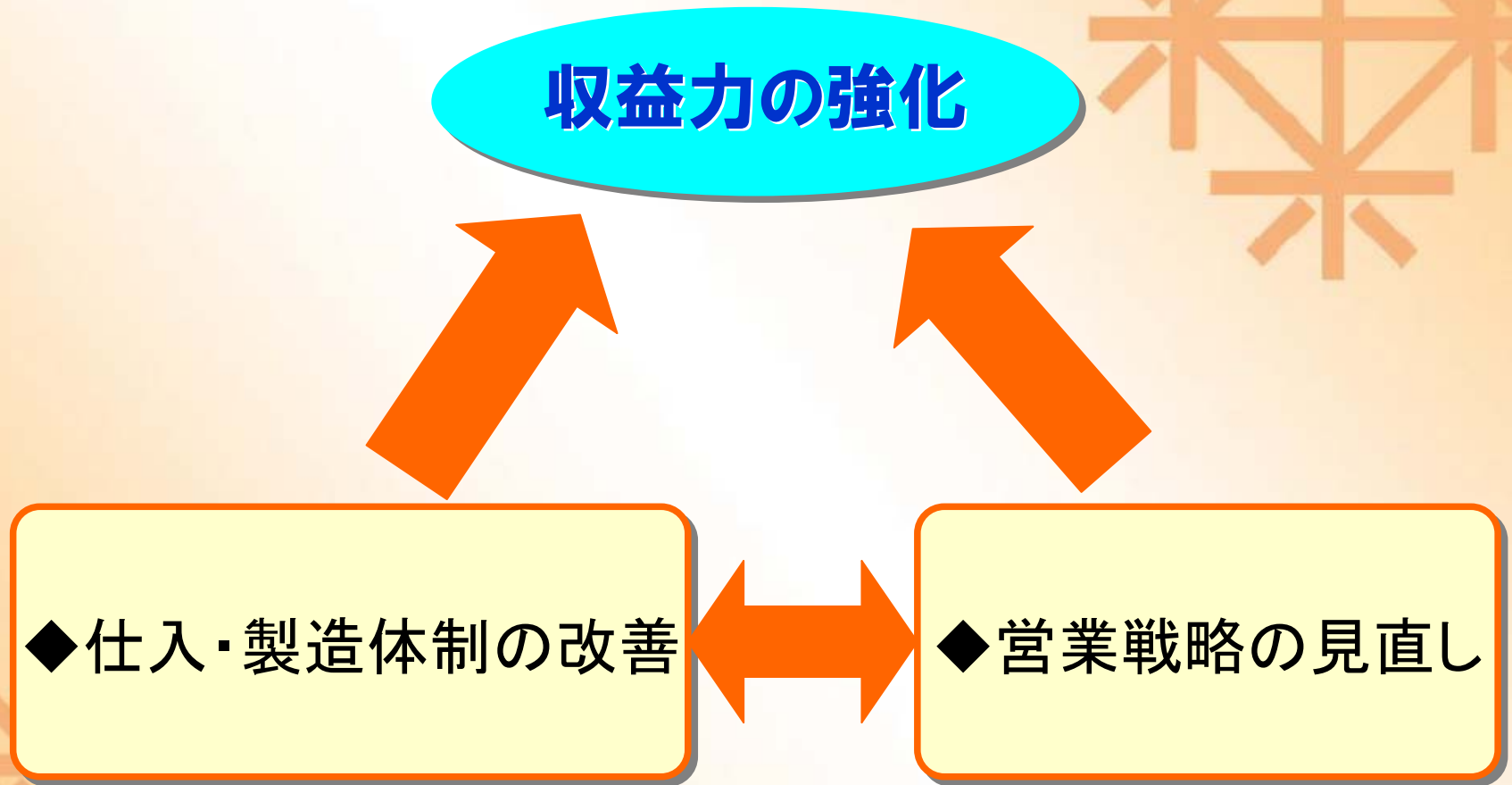
- 生産、流通の自由化
- 販売競争の激化
- 消費者の安全・安心への関心の高まり

◆改正食糧法の施行

(16年4月1日)

- 計画流通制度及びその関連制度の廃止
- 自主流通米価格形成センターの改組
米穀価格形成センター
- JAS法による表示規制の強化
- 米穀の農産物検査の規制緩和

米穀事業収益力の強化



米穀事業仕入・製造体制の改善

◆ 現状

- 産地(地区)指定米の推進
- 計画流通米中心の仕入
- JAS法による表示規制の強化

◆ 効果

- 在庫の平準化
- 仕入コストダウン
- 製造コストダウン

◆ 問題点

- 商品企画の硬直化
- 仕入過剰による在庫リスク増加
- 少ロット多頻度による製造コスト増

◆ 改善策

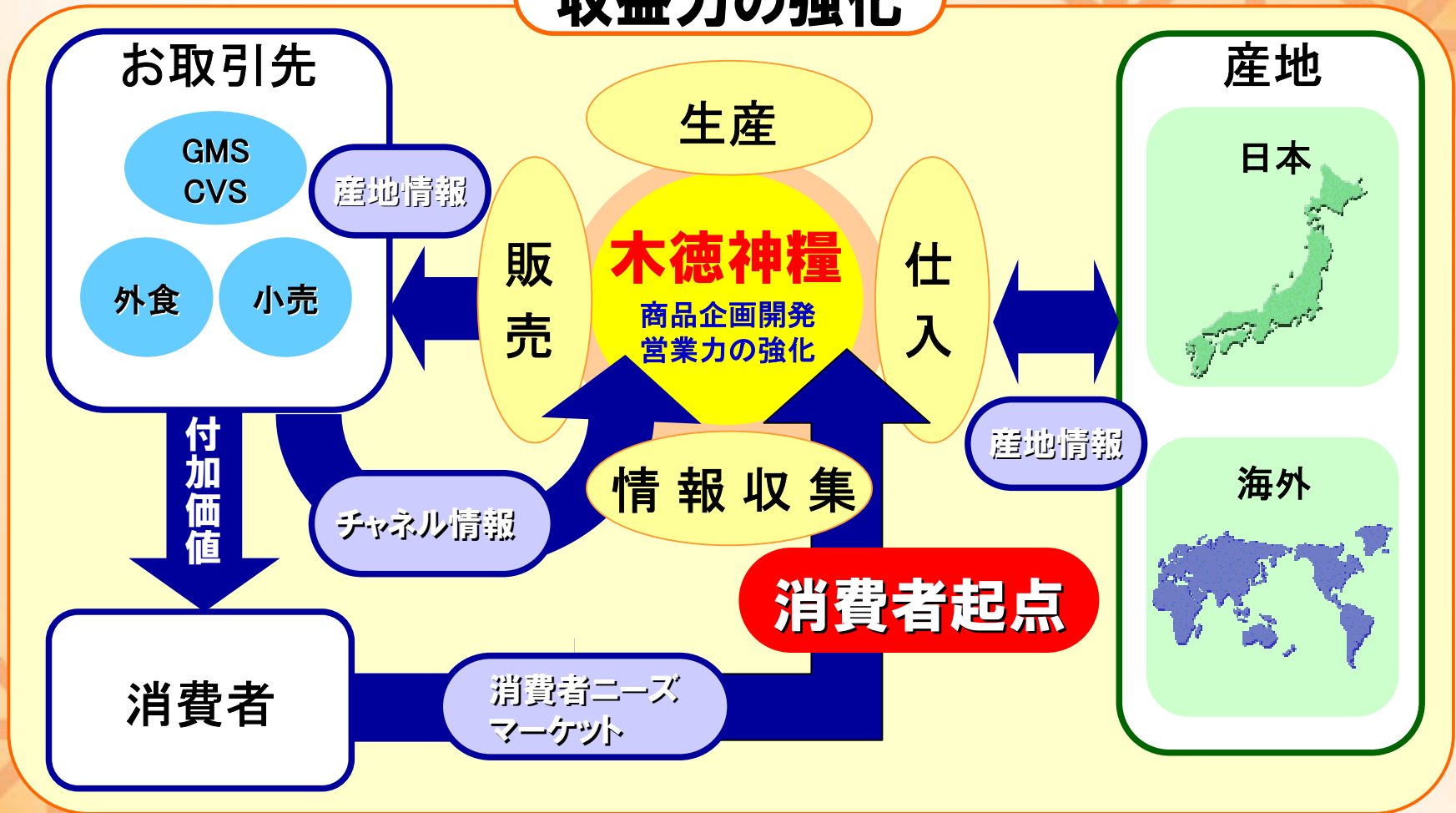
- 仕入の多様化、複線化
- ブレンド米販売の強化
- 産地情報の収集強化
- 製品アイテム統合の推進

米穀事業営業戦略の見直し

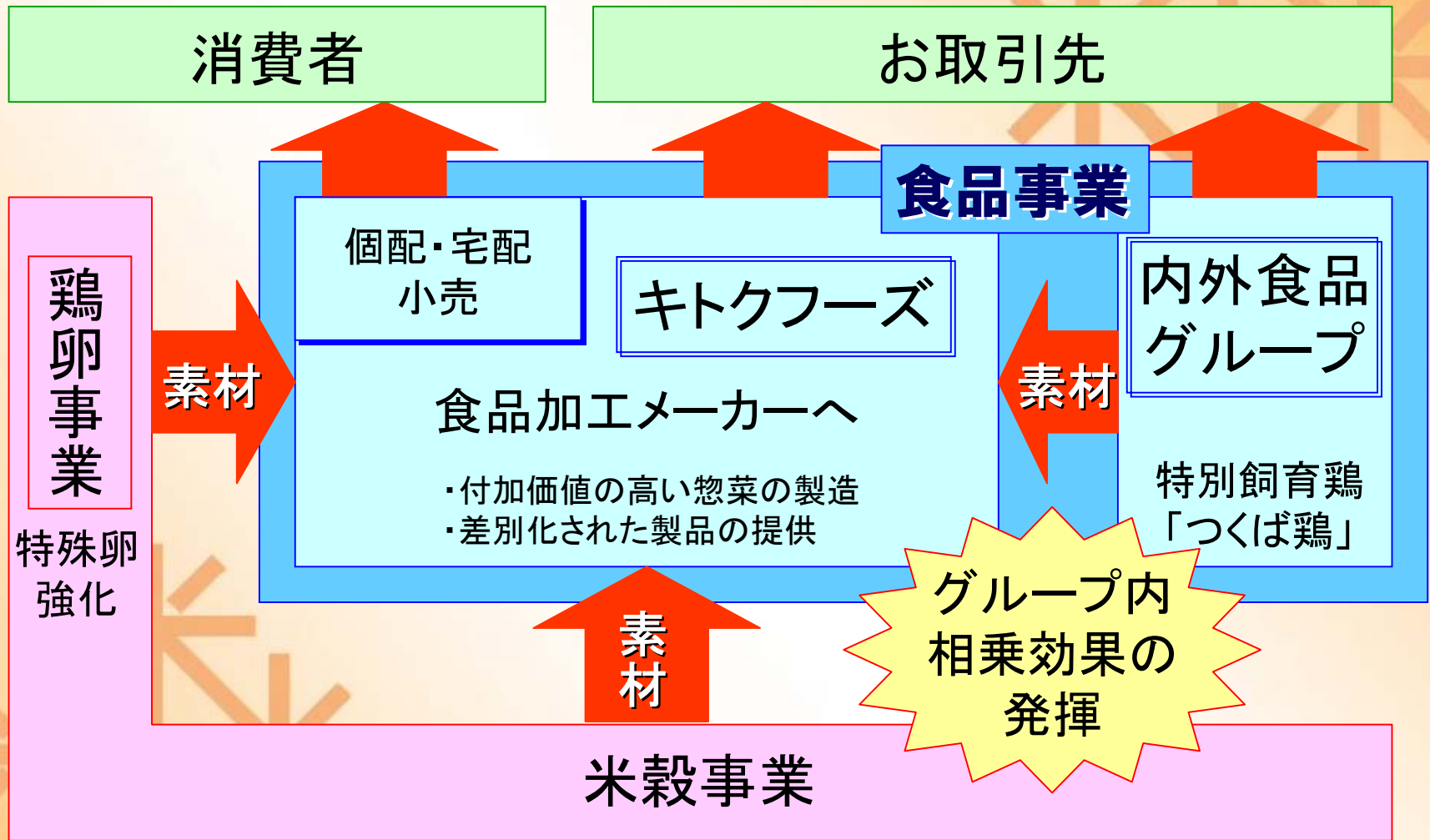


米穀事業の目指す姿

収益力の強化



食品事業・鶏卵事業の目指す姿



飼料事業の目指す姿



木徳神糧グループ成長ストーリー

新たな木徳神糧グループ

成長

第二段階
06年9月期～
・成長・飛躍

準備

第一段階
04年9月期～05年9月期
・収益力の強化
・事業・財務の基盤補強

将来予測について

- ◆ 本資料のうち、業績見通し等に記載されている各数値は、現在入手可能な情報による判断および仮定に基づき算定しており、判断や仮定に内在する不確定性および今後の事業運営や内外の状況変化等による変動可能性に照らし、実際の業績等と大きく異なる可能性があります。